midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

April 2014 No.371-372

4月号の１枚：まな板のための簡易製材が本格化

［巻頭言］夜行バスでやって来る若者ForestNovaのOB

農林業に携わる者は、神の事業の代行者

３月の春休みを利用してもう７～８年にもなろうか毎年、麻布大学を中心とする学生ForestNovaとそのOBが「同窓会」と称して我が家に２０人ばかりが集まるようになっている。今年も三重・岐阜・静岡・栃木、から土・日を利用して夜行バスでやってきた。荒れて行く我が国の森林荒廃を心配して、当会の「森林破壊良いう負の遺産を子孫に残してはならない」と言う理念を共有して、敢えて、我が国産業で最も事故率の多い低収入・過酷な森林の保全・再生に敢然と挑んでいる若者たちである。彼らは、林業会社に就職の為に行くのではなく自分の理想・使命感の為に「林業」に進むのだ。その使命感のゆえに毎年会うたびに逞しくなっていく。彼らに会えることは実に嬉しい。同時に私達年配者の精神も若返って行くからだ。中には、これがあのS君だろうかと思うほど逞しく変身している若者に再開して驚かされることもある。

たまたま同日は麻布大学で環境シンポジウムが有って、当会の「中学生・地球環境部」を熱心に指導している当会理事の宮村さんが、同・環境シンポジウムの講演を引き受けて「相模湖・若者たちの森づくりグランドデザイン」と言う演題で学生たちに話しかけた。このシンポジウムは、４時間の長上場だったが、政岡俊夫学長が最初から最後まで熱心に聞いていて下さった。

我が家に集まったOBたちは、明日の仕事に間に合うように６時ごろ帰って行った。疲れを知らぬ若者たちだから明日の過酷な作業には問題ないと思うが、安全でいてほしいと駅から送り出した。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.04

4月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
4月20日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

3月2日（第一日曜日）

三月に入り、今年度最後になる小原本陣の森での活動を行いました。今回の定例活動では二班に分かれました。一つの班は“緑のダム北相模の川田さん、小林さん、石井さんとPLT（Project Learning Tree）の角田さん、Forest Nova☆の六名で、小原本陣の森に向かう林道に倒木が四、五本確認できたので、午前中は倒木の処理を主に行いました。しかしまだ小原本陣の雪はあまり溶けておらず、深いところでは膝の上まで雪が積もっていました。午後は小原地域の上組の方々と一緒に小原本陣の森を山の尾根を伝って登り、今後“相模湖・若者の森プロジェクト”の活動地として提供してくださる場所の確認をしました。そして小原での活動が終わった後には、角田さんと一緒に今回のような状況の活動地でどんなPLT（Project Learning Tree）プログラムができるのか、なるべく多くのプログラムを考え発表し合いました。一方で、雪の影響は若柳・嵐山にもあり、もう一つの班では集会場近くの軽トラックがある小屋のトタン屋根が積雪の影響で潰れてしまっていたので、その補修を緑のダム北相模の齋藤さんと松尾さん、午後から石井さんとForest Nova☆の一名で行いました。嵐山の道は周辺に住んでいる方々や川田さんによる雪かきが行われていたので、スムーズに通ることができました。集会場の小屋は積雪による重みで半割りの板がわれてしまい、トタン屋根がVの字に曲がってしまっていたので、最初に小屋全体を上げるために中央部分に柱材を立てました。また割れてしまった半割りの板が軽トラックの屋根にめり込んでしまっていたので、モマ工房にあったジャッキを利用してめり込んでいた板を上げました。また割れてしまった半割りの板の代わりになる３mの丸太を林内から見つけ、仮ですが小屋の補強を行いました。

今回の小原本陣の定例活動は先月の嵐山の定例活動と同様に、大雪による大幅な活動内容の変更がありました。何十年に一度の大雪だったとはいえ、近年の異常気象をみていると、また来年度も異常気象による活動内容の変更等が十分にあり得ると思います。しかしこうした異常気象に対しても適切に対応し、無理のしない活動を行っていきたいと感じました。来年度の活動も宜しくお願いします。

釜谷　優太（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

3月16日（第三日曜日）

中央線・ホリデー快速の車窓からは遠く雪をかぶった富士や丹沢の山々が見える。だが、空気は確かに春のものだ。山の木々の冬芽こそまだ堅く閉じているものの、基地周辺の梅の花はほころび、フキノトウも雪の残った地面から顔を出している。

先月は大雪のため嵐山での活動はあきらめたが、うって変って今日は絶好の日和。参加52名。２ヶ月が空いたこともあり、作業量は多くなるだろう。

お花畑班はせっかく苦労して造り

あげたモッコウバラのアーチが無残にも雪に押し潰されてしまったため、その修復に取り掛かる（次ページ、中下）。幸いバラは折れていなかったが、メンバーのひとり井伊さんの心が折れたとか。

森林整備班は数グループに分かれた。班長・川田さんは県との協力協約に従って間伐された材の数をチェック。なんと120本ほどもあったとのこと。これらは林内乾燥後に材として利用する由。残りのメンバーは雪の重みで掛かり木となったコナラの玉切り（次ページ、中上）（シイタケを育てるという）、高井戸中の枝打ち作業（次ページ、左）の補助、さらにこれも雪の影響でＮＴＴの電線に掛かったスギの処理と大忙し。ちなみに、地面にまで垂れ下がっている電線や我々が手をつけるべきでない掛かり木も多く、これらはＮＴＴに任せる予定。

さて学生陣であるが、こちらも今日は盛り沢山だ。高井戸中は２班編成。午前、午後に交代で間伐、倒木処理とまな板づくり（次ページ、右）を実施。

後者には「アラスカン」という製材機を使用しなければならず、危険を伴うため、チェーンソー講習を受講済みのベテラン斎藤さんとフォレストノバの望月さんが付ききりで指導。材を切断するかん高い機械音。飛び散るおがくず。その向こうに厚く長い一枚板が徐々に姿を現してくる。これを適当な長さに切り、自動カンナをかければ立派 なまな板の完成だ。仕上げは学校に持ち帰ってから。

一方のForestNova。午前中は選木作業、午後は径路の補修や桜祭りの準備に追われていたようだ。山田君、釜谷君、世持さんの３名は私と一緒に自然観察勉強会。ForestNovaの森からなみすけの森、望星の森、寺跡へとつづくコースを歩きながら１時間半。真面目に取り組んだつもりだったが、解説者が解説者故、話はいつも行き当たりばったり。仕舞いにはコースとは関係ない熱帯雨林にまで及んでしまった。これでよかったのだろうか？

いつもなら各班、グループに分かれての作業になるところ、今回は異なるグループのメンバーが入り混じり、助け合い、様々な活動を展開できた。互いの交流、活動の様子を知るよい機会。雪で森は荒れていたが、思わぬ収穫も手に入れた。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告1]
「緑のダム」の活動に参加して

私は来日4年目になる中国からの留学生の都穎（トエイ）と申します、日本に来て、日本語学校に通うなかで、大学で環境教育を勉強することに決めました。子どもの頃からよく、海辺や山に遊んでいたこともあり、自然に感情を持ち、時間が絶つと海や山に恋しくなります。一時帰国の時にも、必ず海に面した山に登り、叫び、涙を流し、今まで溜まったストレスが解消できます。自然は私にとってなくてはならない存在です。せっかく環境のいい日本にいて、直接学ぶことができるので、自分が好きな自然のためにも、地元のためにも、自分のためにも、貢献ができればと思って、決心したからです。

今回は緑地環境論の授業の一環として、クラスのみんなで参加することになりました。私たちの森林ボランティア体験を「緑のダム北相模」と「フォレストノバ」が受け入れてくださいまして（１２月１５日）、順調に活動できました。今回の活動の中心は間伐でした。木を切る経験がない学生がほとんどなので、木を切る方法を教えてくださいました。みんなが体験できるように、一人ひとりが鋸を持ち、切ってみました。途中で隣の木に引っ掛かったりして何回も苦境に陥いりましたが、みんなの力を合わせて、困難を乗り越え、ケガ人もなく、木を倒しました。技術と経験が必要な作業だなと分かりました。

今回の活動の目的は自然保全の必要性と技術性を実感することです。森林を保全するためには、森林を放置することではなく、適当な手入れが必要ということを勉強しました。

今回で学んだことが将来に必ず役立つとと思います。私の環境の勉強にも知識の蓄積に貢献できました。

緑のダム北相模とフォレストノバの皆さんお疲れ様です、ありがとうございます。

都　穎
（東京学芸大学環境教育専攻）

[報告2]
ForestNovaの近状報告

こんにちは、ForestNova☆の瀬戸智大です。この度、僕の通っている麻布大学を卒業し、4月から社会人になることが決まりました。

ForestNova☆に入ったのは一年生の後期。幼いころから山で遊ぶ事の少なかった僕は、大学に入ってからも“森”とは、あまり関わることの無い生活を行っていました。そんなある日、友人に誘われForest Nova☆のミーティングに出てみて、今まで考えてこなかった森というものについて取り組んでいる人たちがいること、こんなにも日本の森に人の手を入れる必要があったのかと強く衝撃を受け、Forest Nova☆へ入りました。

その後、定例活動に参加した時に、緑のダムの皆さんが山で活動している姿を見て、「なぜ、ここまで熱心に森で活動できるのだろう？森には何があるんだろう？知りたい！」という、好奇心が強くなりました。また、定例活動では今まで話でしか聞いたことのなかった、間伐や枝打ち、経路づくりや植生調査など、様々な経験を四年間ですることができました。

すると、今まで机の上で考えてきた自分の意見や考えが、いかに実現が難しいのか、現場を知らない無理な計画なのかを思い知らされました。同時に、机の上で色々と考えていても物事は何も進まないという事、実際にその場所に行ってみることの大切さを、緑のダムの皆さんから教わりました。

この四年間森で活動することで、色々と学ぶことが多かったのですが、僕が一番大切にしていたのは“知ること”です。実際に森で得る知識や本で仕入れる知識、人から教わる知識など、得た知識を森に還元できる喜びは何物にも代えがたいものでした。これから僕は社会人となり、新たな一歩を踏み出しますが、森で学んだことを社会でも生かしていき、また社会で学んだことも、これからも森に生かしていきたいと思っています。

これからも、時間の許す限り、森に関わっていきたいと思っております。その時は皆さん、どうかよろしくお願いします。

瀬戸　智大
（Forest Nova、麻布大学）

ForestNova☆の吉田あさぎです。女子美術大学で授業とは別に行っていたアート・女性という切り口で社会に対して提言していく学生団体を土台に、今のForestNova☆にて自然と土地に関する知識はもちろん、街での生活では身につかない身体感覚を勉強させていただきました。

他メンバーよりも短い期間しか参加出来ていませんでしたが、一回一回の活動を鮮明に覚えています。初めて間伐を経験した時に、何物にも代え難い感動があったのを今でも思い出すことがあります。

私は三年生からの参加であったことと、中学高校で学んだきり環境のことをちゃんと知らない中で、山で活動するには知識・経験・技術・体力が圧倒的に足りない…という現実に落ち込んだこともありましたが、現実を受け止めた上で私には何が出来るのかを模索してきた二年間でした。

来年度からは大学院に進学します。大学院では日本の衣食住に関わる文化や感性を学び、表現方法の一つとして制作活動も続けていきます。大学時代よりも活動域を広げつつ、今の私の基礎土台を作ってくれた幾つもの地域、土地とも細々と関わりを持っていきたいと考えています。

吉田　あさぎ
（Forest Nova、 女子美術大学）

[報告3]
三井物産の方より出前授業をしていただきました

３月６日木曜日、本校２年生を対象に出前授業を実施していただきました。理科の授業内の設定で森の環境調整機能から話が始まり、森の価値や今後の利用のあるべき姿について50分間の講義をしていただきました。参加した生徒の感想をご紹介します。

私は今まで森について理解していると思っていました。しかし、それは表面的なことにしかすぎませんでした。我々にとって森は生活の要です。森をなくして生きてはいけない、木づかいが日本の森を救うということを学びました。

さて、私達に出来る木づかいとはなにか？それは個人個人が森の価値を再認識し、木製のスプーンや食器を使うこと。

また私が思う森の価値とは、生命の源になっているところです。森はダムの役割をし、栄養分が海に流れ、生物多様性が存在しています。しかし海外では森林伐採が進み、日本では人工林が放置されていることが現状です。そこで森の保護のために間伐や枝打ちの技術を後輩へ伝え、木の魅力を広めていきたいです。（2年生、女子）

三井物産の方に講義をしていただくようになり４年が経ちました。例年お忙しいなかお時間を作っていただき、貴重なお話をいただいています。特に今年の２年生には毎月相模湖の国際認証林で作業を行う地球環境部の生徒が多く、そんな彼らですら新しく学んだことが多かったと話す内容の濃い講義をしていただきました。

経済性と環境性を両立するためにはどんな工夫をしていますか？

積み木やまな板などの間伐材の利用に取り組んでいるが中学生にできそうなことはないか？

といった中学生が聞きそうにもない質問にも丁寧に答えていただきました。

今後は本校からもフィールドが近い千葉県の亀山山林などでの実習など様々な場面でさらなるご指導をいただければと思っています。

今回も出前授業をしてくださりありがとうございました。今後とも様々な方からアドバイスをいただき、活動を多様化させていきたいと思います。

宮村　連理（本会、 理事）

[事務局からのお知らせ、お願い]

第41回相模原市民桜まつりに出展

「政令指定都市・相模原市：内陸・森林再生ハブ都市に向けて」

日時：
平成26年4月5日(土) 13時~17時
6日(日) 10時~17時
場所：
相模原市役所横
第 2 駐車場 2F 特設会場
実践 さがみはら森林ビジョン

後援：相模原市、神奈川県、(社)国土緑化推進機構

今年度もミニSL広場、積み木広場に加え、ForestNova、JFIK全国森林インストラクター神奈川会など多くの出展があります。ぜひ、お越し下さい。
（写真は昨年度のものです）

麻布大学環境ワークショップ2013
環境カフェあざぶ「山・川・海が大ピンチ！」にて事例報告

3月9日日曜日に同大で行われた環境カフェ（講演会形式ではなく、軽食とグループトークを中心としたカフェのような雰囲気のワークショップ）の「山」のピンチを題材に事例報告を行いました。今回は写真でご紹介します。内容の詳細については来月号にてご報告します。

当日は政岡学長はじめ、多くの方にご参加いただきました。

プレゼンをする本会理事、宮村

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●今年度の会費を納入いただいた方です。ご支援ありがとうございます。
酒井秀夫、宿澤俊一（敬称略）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版